

おかちまち たいとう

台東区立御徒町台東中学校 学校だより 第10号

令和5年1月27日(金)

校長 福沢 俊之

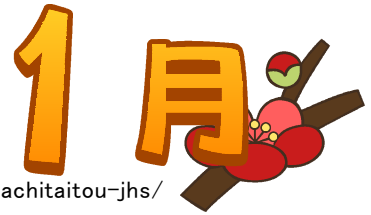
Tel 03(3831)3787



学校ホームページ

<http://www.taitocity.net/okachimachitaitou-jhs/>

↑ 更新中



「大人になる」こと

校長 福沢俊之

昔からよく「一月(いちげつ)往ぬる 二月(にげつ)逃げる 三月(さんげつ)去る」と言います。「年が明けて、正月(1月)から3月まではいろいろな行事があり、あっという間に過ぎてしまうものだ」ということを、各月の最初の文字に合わせて調子よく表現した言葉ですが、まさにこの3学期を表していると感じます。1月も終わり、もうすぐ2月、この言葉のとおり3学期は早々に過ぎていきそうです。

2年生は今、2月4日(土)の「立志のつどい」に向けて準備をしています。先月、各クラス代表8名による学年の発表会を参観しました。それぞれの発表の中で「大人になる」という言葉が聞かれましたが、「大人」の意味はさまざまであり、使われる場面でも異なるように思います。今月9日は「成人の日」、先週16日の朝礼で「成人の日」の紹介をしながら「大人」について私の思うところをお話ししました。

9日の新聞記事に「成人の年齢が18歳に引き下げられ、初めて迎える『成人の日』」とありました。年齢を定めている「民法」が改正され、施行されたのは昨年4月、条文には「年齢十八歳をもって、成年とする。」と示されています。ただ、「18歳」というと受験の時期を迎えている人も多いということで、これまでどおり20歳の人たちが集まるように、名称を「二十歳の集い」として式典を開催した自治体も多かったようです。

また「成人の日」は、「国民の祝日に関する法律」で、「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いあげます。」と定められた祝日です。ただ、この法律では年齢の規定はありません。このことから「大人」であるかどうかは、年齢ではなく、その自覚があるかどうか大切にされているように思います。

では、「大人の自覚」とはどういうものか……。

これにはさまざまな見方があると思いますが、その一つとして私が思い浮かぶのは、「思い出がいっぱい」という歌の歌詞です。かなり昔のアニメの主題歌ですが、かつて中学校や高校で合唱曲としてよく歌われていたこともありました。その歌詞に「大人の階段昇る 君はまだシンデレラさ 幸せは誰かがきつと 運んでくれると信じてるね」という一節があります。誰かが幸せにしてくれるのを待ち続ける姿勢には、まだ「大人の自覚」は見られない、だから「シンデレラ」と表現しているのでしょう。「自分の人生は自らの力で切り開く!」と決意することこそ、大人の階段を昇っていく上で大切なこと、その歩みの始まりであると思います。その決意は、例えば、義務教育を終えた後の自分の進路を自分で選んでいくみなさんに求められることであり、「誰かが」ではなく「自分が」できることをする、その積み重ねが大人の自覚を形作っていくと思います。

実は、「大人の自覚」は、新しい成年年齢でいえば、トリプル成人式を過ぎた私にとっても、自らを戒める意味において求められることがあります。「体の成長」に終わりはありません、「心の成長」には限りがありません。「成人の日」について考えながら、「大人になること」「人としての成長」を考える機会になりました。

中学生の税についての作文表彰

上野納税貯蓄組合連合会入選 (2-4)「税金の大切さ」

上野納税貯蓄組合連合会佳作
佳作 (1-1)「税の大切さ」
佳作 (2-2)「人の役に立つもの」
佳作 (3-1)「私にとっての税」
佳作 (3-3)「税が支える将来」
佳作 (3-4)「わたしたちと税」

第41回台東区全校青少年表彰

防火の部 上野消防少年団にて、防火防災に対する知識と技術を学び、積極的に活動した。

(2-2)

台東区環境コンクール

ポスターの部門

優秀賞 (2-2)



標語の部門

最優秀賞

(3-4) 「いりません」 その一言の 積み重ね

優秀賞

(3-1) 「みんなで作ろう 花と緑の台東区」

優秀賞

(3-4) 「もったいない 食べられたのに 捨てちゃうの？」

優秀賞

(3-3) 「新緑に 染まる街には 笑顔咲く」

佳作

(3-1)、(3-3)、(3-2)

東京都明るい選挙啓発ポスターコンクール

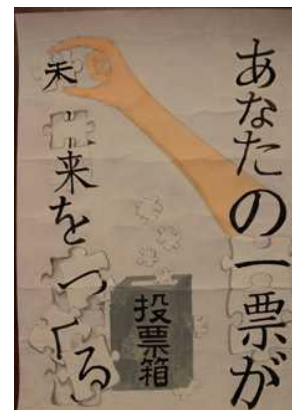
入選

(2-1)



入選

(2-3)



出品者

2年1組

2年2組

2年3組

2年4組